

平成 23 年度 図書館情報学海外研修助成報告書 知識情報・図書館学類 4 年 向後直美

卒業研究テーマ「20 世紀初頭のアメリカ公共図書館における日系人問題について：カリフォルニア州サンフランシスコ市を例に」

研修期間：平成 23 年 9 月 2 日～平成 23 年 9 月 9 日

目的地：アメリカ合衆国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市

主要訪問先：サンフランシスコ市立図書館 (San Francisco Public Library)

1. 研修目的

卒業研究では日本人排斥運動が活発であった 20 世紀初頭を対象に、サンフランシスコ市立図書館がどのように日系アメリカ人問題を捉え、サービスを行っていたのかを明らかにする。研究方法は文献調査であり、サンフランシスコ市立図書館における日系アメリカ人に対するサービスについて、サンフランシスコ市図書館委員会議事録、サンフランシスコ市立図書館年次報告書などの公文書と当時のサンフランシスコの新聞記事、先行文献を用いる。現地に赴かなければ得られない資料があったため、サンフランシスコ市立図書館に訪問し、資料収集を行った。また、チャイナタウンとジャパントウンも見学してきた。

2. 研究報告

2.1 サンフランシスコ市立図書館

サンフランシスコ市立図書館は地下 1 階地上 6 階の全 7 階建ての立派な建物である。立地場所は地下鉄の“シビックセンター”という駅の正面でとても便がよい。また、周辺には市庁舎やアジア美術館、シンフォニックホール、オペラホールなど芸術・文化が集中している区画の一角に建てられていた。自分はサンフランシスコ市立図書館の歴史と当時のサンフランシスコの新聞の収集を行ったため、5 階の雑誌&新聞センターと 6 階のサンフランシスコヒストリーセンターを中心に利用した。

紙面コピーには 1 日 50 枚という制約があったが、デジタルカメラでの接写は利用制限がなかったので、持参したデジタルカメラで文献を接写した（以下コピーと記す）。研究で主に使用するサンフランシスコ図書館委員会議事録を 1900-1925 年までコピーを行った。他にも、サンフランシスコ市立図書館の歴史についての論文・新聞の切り抜き・パンフレット、や日系人についての論文・新聞の切り抜き・パンフレット、また、チャイナタウンとジャパントウンにある支部図書館についての新聞記事や雑誌の記事から必要文献を選別しコピーを行った。



図 1 サンフランシスコ市立
図書館



図 2 市庁舎

*図1の正面の道路を隔てたところに図2がある。図2の前の広場は芝生になっており、市民の憩いの場となっている。

2.2 チャイナタウン/ジャパントウン

チャイナタウンの入り口の門をくぐると、アメリカとは思えないほどの漢字の看板が出現する。通りの両脇に店がぎっしりと並び、中国の商品、時には日本の伝統文化の商品を扱っている店が並んでいた。また、中国料理店もその並びに所狭しと並んでおり、それを食べにきた中国人、観光にきたアメリカ人が多く、とても活気のある街だった。

そこから6キロ〜7キロほど西へ行ったところにジャパントウンはある。ジャパントウンはチャイナタウンと比べ区画が整備され、ショッピングセンターも建設されており、雰囲気としては新しい街であった。しかし、チャイナタウンと比べると店舗は少なく、あっても閉店している店が多かった。通りを歩いているひとは少なく、ほとんどショッピングセンターに人が集中しているようであった。チャイナタウンと比べるとジャパントウンは「廃れている」印象を受けた。

チャイナタウンとジャパントウンでのこの栄え方の違いは第二



図 3 チャイナタウン

次世界大戦に起こった日系人の強制隔離に起因していると考えられる。第二次世界大戦に日本はアメリカの敵国であったため、アメリカの市民権を得ている日系人2世も含め日系人は強制収容所に入れられた。この結果ジャパントウンは解体された。一度コミュニティが解体されてしまうと復旧は難しく、強制収容が行われなかったチャイナタウンの方が活気があったと理解できる。



図 4 ジャパントウン

ジャパントウンには個人で創設されたものらしき図書室がいくつか発見された。それは「KIMOCHI LOUNGE」と言い、



図 5 キモチラウンジ

日本の小説や漫画、ビデオなどが揃えられているところだった。自分がジャパントウンを訪れた時にはそこは閉まっていたので細かいことまでは不明である。しかし、ジャパントウンに公共の支部図書館があり、そこで現在は日本語の図書の貸し出しが行われているとしても、それだけでは日系人には不足であるのだと考えられる。